2025年1月19日
前橋市「地域福祉市民ワークショップ」
構想日本代表 加藤秀樹

「自分ごと化」は自分にとって「得」になる
「他人ごと化」は自分にとって「損」になる

1．「自分ごと」って何を？

みんなのこと
- 地域福祉
- 公共交通
- 健　康
- ゴ　ミ
- 防　災
- ・
- ・
- ・

それぞれは
自分のこと
または
他人のこと ＝
自分以外のみんなのこと

2．「他人ごと」になるのは遠いから

地域交通、防災、増税、国の借金　・・・　戦争、温暖化

それでもみんなのことは他人のことではない

「他人ごと」のままにしておくとツケは必ず自分に返ってくる

怒らないといけなくなる前に「自分ごと」に

3．自分ごと化するのは「公助」

自助　→　共助　→　公助　　ではなく

公助　→　共助　→　自助
‖
前橋市の事業

住み慣れたまちで安心して暮らせるために

町社協

地域住民のみなさまと進める支え合いのまちづくり

サロン・交流

おしゃべりしたり、
笑ったり、楽しい時間を
過ごせる居場所

見守り

訪問活動や見守り会議
日常生活でのあいさつ
声かけ、目配り、気配り

支え合い

日常生活での簡単な
困りごとのお手伝い

お問い合わせ
お待ちして
います

前橋市社会福祉協議会地域福祉係　TEL 237-1142

〒371-0117　前橋市日吉町2-17-10　総合福祉会館3階

前橋市社会福祉協議会 各支所

大胡支所 TEL 283-2001　宮城支所 TEL 280-2230
粕川支所 TEL 285-3801　富士見支所 TEL 288-6113

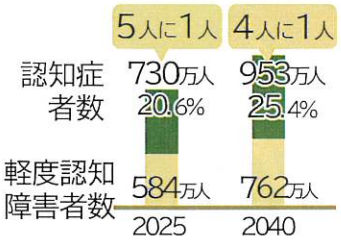
社会的背景と課題

高齢化にともなう人手不足

2025年
5人に1人が後期高齢者
高齢化率 30%
介護・医療の人手 69万人不足
2040年
3人に1人が高齢者（4000万人）
生産性の低下・労働力人口の減少

認知症者数の増加

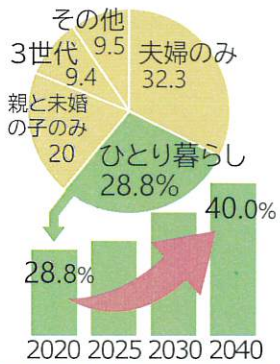
2025年には、小学生の数より認知症者数が多くなります。
また、高齢者の3人に1人が認知的な問題を抱えることになります。



一人暮らし高齢者の増加

一人暮らし高齢者は、年々増加することが予想され、孤独化・孤立化が問題とされています。
さらに、新型コロナにより、孤立の悪化が予想されます。

<高齢者世帯の構造>

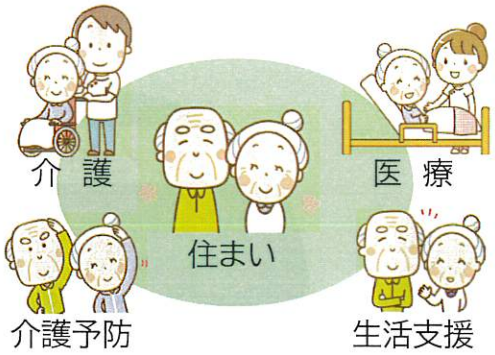


こうした問題に対応するために、
介護保険法が改正され、
「地域包括ケアシステム」
「生活支援体制整備事業」
の推進が義務化されました

地域包括ケアシステムと生活支援体制整備事業

地域包括ケアシステム

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、
「住まい」「介護」「医療」「介護予防」「生活支援」
を一体的に提供することです。



生活支援体制整備事業

地域の住民が主体となり、支え合う仕組みづくりを推し進めるものです。

<支え合いのまちづくりを進める2つのポイント>

介護予防
サロンなどの交流・居場所づくり
地域での活躍の場づくり

支え合い
近所で、困ったときに頼ったり頼られたり顔の見える関係をつくる

前橋市が進める町社協

町社協とは

交流・見守り・支え合いを継続的に進めます。
地域の困りごとに、組織的に対応します。

町社協の構成員

自治会・民生委員・保健推進員・老人クラブ
ボランティア・各福祉団体等・町に暮らす住民

町社協により期待される効果

- 交流活動や見守り活動を継続的に続けられるしくみができます。
- 地域の中で、協力や相談できる仲間ができ、つながりが広がります。
- 住民同士お互いに支え合えるまちづくりにつながります。

町社協設立までの流れ

町社協メンバーの役割

福祉委員

代表者（町社協を代表し運営する人）
世話役（受け手と担い手の活動を調整をする人）
担い手（困りごとを実際に解決する人）
受け手（様々な困りごと抱えている人）

STEP 1　企画運営会議を開催する

町社協を組織・運営していく上での中心となる住民が少数で集まり、
今後開催する座談会や調査などの予定・進め方について話し合う。

座談会の進め方についての合意形成

企画会議のメンバーで、ある程度の目標や進め方を決める。
座談会に呼ぶ人を決め、座談会で聞きとりたい意見や検討したい事項を考える。

STEP 2　座談会を開催する

「ふれあい・いきいきサロン」や「見守り活動」の担い手を中心に座談会を
開催し、町の支え合い活動をどう進めていくかを話し合う。

①町社協設立に向けた支え合い活動の合意形成

町社協を設立する目的、町で支え合い活動を進めていくうえでの
目指すことを話し合い共有する。

②町社協の活動をどのように進めていくか

町社協としての活動を決めるためには、住民が何に困っているのか
（ニーズ）を把握することが必要であるため、
どのように困りごとを把握・整理するかを決める。

③役割を分担する

町社協の世話役とその他の関係者・団体役員がどのように協力を、
していくかを決める。
（困りごとの把握・整理を進める人、担い手の状況調査を進める人）

STEP３　住民の困りごとを把握する

町社協の活動を決めるために、住民が何に困っているかを把握・整理する。

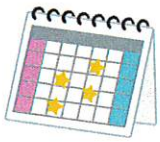
アンケート調査・聞き取り調査

聞きたいことや知りたいことをアンケートにして調査をする。
高齢者宅等へ訪問したり、サロンの場で聞き取り調査を行う。

STEP４　町社協の活動内容を決める

把握・整理した困りごとをもとに、何をどのように活動していくかを決める。

①何を・いつから・誰がするのかを決める



把握・整理した困りごとに対して、町社協がどのような支援・活動を行えるか検討し活動内容を決める。活動を始めるためのスケジュールを決め、活動に参加してくれる担い手を募集する。

②検討や準備が必要なことを整理する

活動をはじめる前に取り決めすべきことを整理する。
（活動の周知や広報・活動の調整や連絡方法・活動の拠点整備・担い手などが加入する保険など）

STEP５　活動をはじめる（試してみる）

活動の周知・広報を行い、困りごとに対する支援・活動をはじめる。
また、実際に活動した結果をもとに活動方法を改善したり、今後の展開を考える。

①試行・プレ実施

考えた活動の内容や流れを試行してみる。実際に実施してみて、改善すべきことなどを話し合う。

②実施のための周知・広報

活動をはじめることを住民に向けて知らせる。
また、町の団体役員や会員などに周知し、協力者も増やしていく。

町社協の組織化
（規約の作成、福祉委員の役割等を決める）

地域共生社会の実現に向けた地域づくり

公益財団法人 豊田地域医療センター
理事・事務局長（元豊田市福祉部長）
伴　幸俊

写真は豊田地域医療センター診療棟

©TOYOTA REGIONAL MEDICAL CENTER. All rights reserved.

私たちが目指している社会：地域共生社会

豊田市 TOYOTA CITY

『安心な暮らし』と『生きがい』

『つながり合える地域』

『誰もが幸せを感じられる社会』

一人ひとりの「安心な暮らし」と「生きがい」

「支え手⇔受け手」の関係を超える

幸せを感じられる「地域共生社会」をともにつくる

制度・分野の「縦割り」を超える

地域の「つながり合い」

豊田地域医療センター

豊田市における地域共生社会を推進するための主要事業一覧

豊田市 TOYOTA CITY

事業名	事業目的
わくわく事業	「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の活動を応援
地域課題解決事業	地域の声を的確に市の事業に反映させ、地域課題を解決するための仕組み
在宅医療・福祉連携推進事業	在宅医療と福祉の連携により、在宅療養サービスの充実に向けた取組
重層的支援体制推進事業	子ども・障がい者・高齢者など対象者ごとの支援体制からの脱却

わくわく事業

豊田市 TOYOTA CITY

安心な暮らし	○	生きがい（自分らしさ）	○	つながり合い	◎

○　わくわく事業は、住みよい地域づくりのため、地域資源（人材・文化・自然など）を活用して、**「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の活動を応援する制度である。**

○　様々な地域の課題に対して、地域住民が自ら考えて実行するきっかけづくりの仕組みであり、地域による公開審査会を実施し、市長が補助額等を決定する。

○　豊田市では、本事業を通じて、現在280を超える団体が住みよい地域づくりのために活動しており、①保健福祉　②伝統文化　③防災防犯　④環境保全　⑤子どもの育成　⑥産業振興　などの取組をしている。

住民が主体となって地域の課題を解決！

地域

子ども居場所が…
高齢者の孤立が…
環境が…

①地域の課題を発見

地域

②解決策の検討
③補助金の申請

地域住民（支所等）

④地域による審査
⑤補助金の交付決定

補助金による支援

- 市が交付（地域による審査あり）
- 地域団体が主体で事業を実施

原則

- 補助上限額100万円
- 補助率90%

～わくわく事業の活動例～

彼岸花の整備活動

親子の性教育講座

環境整備活動

子どもの居場所づくり

郷土芸能伝承

お助け隊活動

【申請件数】

年度	R2	R3	R4
件数	246	253	268

活動内容は多種多様！
住みよい地域づくりのために、
住民の方が活動されています！

地域課題解決事業

豊田市 TOYOTA CITY

安心な暮らし	○	生きがい（自分らしさ）	○	つながり合い	◎

○　地域課題解決事業は、住みやすい地域づくりのために、地域の声を的確に市の事業に反映させ、地域課題を解決するための仕組みである。
○　豊田市では、全28中学校区に「地域会議」を設置し、地域の声を集約し、中期的な課題の深堀や解決に向けて協議を行っている。
○　地域課題解決事業で取り扱う事業は、地域課題の解決や地域の活性化に資するものであり、事業の実施にあたっては原則、地域会議（中学校区）エリアにおいて、地域と行政との役割分担に基づき、共働で取り組むことを基本としている。
　①　地域会議からの提言による事業：地域会議が地域課題を集約し、作成した市長への提言に基づく事業
　②　支所提案事業：支所が地域課題を集約し、立案する事業

地域課題の解決策を事業化し、地域との共働で解決！

地域会議

②課題の深堀、解決策の検討
③解決策を市長へ提言

地域

①地域の課題を発見

⇒ 地域の意見を市に伝える

市

④事業検討、予算化

地域×市（共働）

⑤地域と市が共働で事業を実施

【事業数】

年度	R2	R3	R4
件数	68	63	68

～地域課題解決事業の活動例～

都市部

防災対策、交通安全、防犯対策等

浄水の避難所訓練の防災ゲーム体験

豊南の交通安全教室

山村部

定住対策、高齢福祉、観光交流等

旭木の駅プロジェクトの出荷作業

しもやま魅力発見事業

在宅医療・福祉連携推進事業

豊田市 TOYOTA CITY

安心な暮らし	◎	生きがい（自分らしさ）	○	つながり合い	○

○　豊田市では、将来にわたって本人の望む療養生活を実現できる、持続可能な地域包括ケアシステムの構築に向けて、本市と医療・福祉関係機関が共に取り組むアクションプランとして、令和６年３月に「第２次豊田市在宅医療・福祉連携推進計画」を策定している。

○　当計画の特徴としては、在宅療養生活全体にわたり適切なサービスが提供されるよう、医療と福祉が密接に関わる４つの場面（日常の療養支援・入退院時・急変時・看取り）において、柱となる４つの要素（提供体制・人材育成・連携・啓発）のあり方を整理し、各関係機関が主体的に展開する事業を位置づけている。

目指す姿

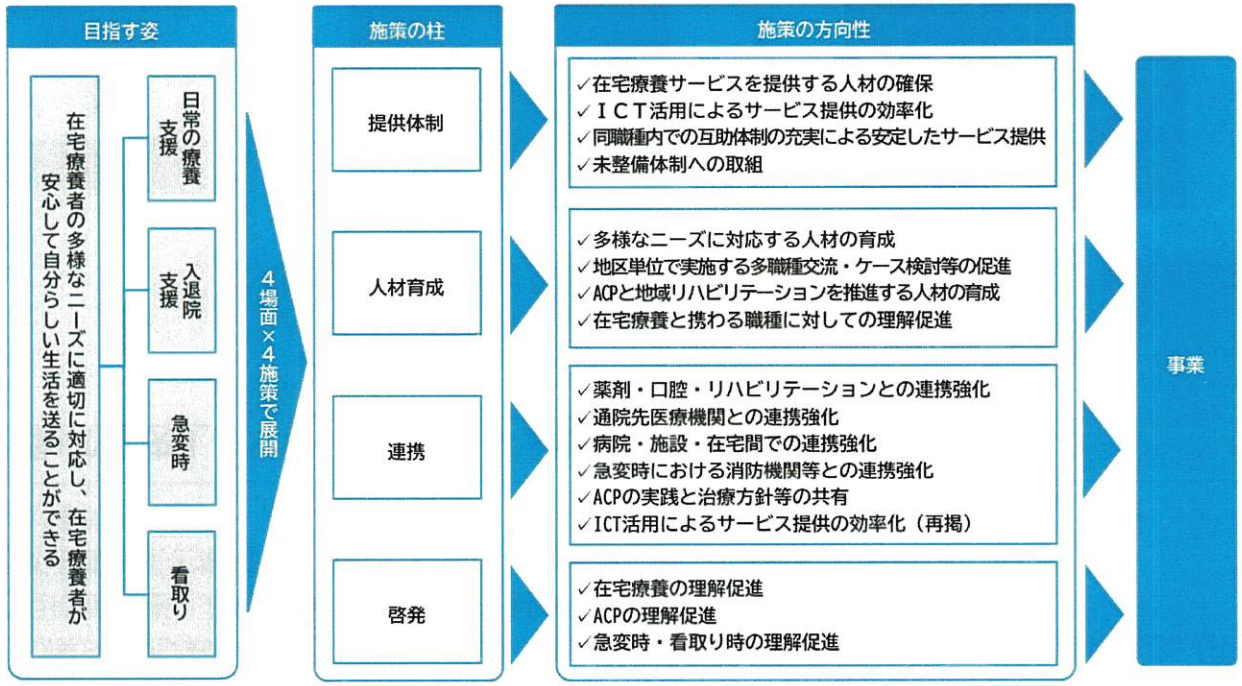
在宅療養者の多様なニーズに適切に対応し、在宅療養者が安心して自分らしい生活を送ることができる

計画期間

令和６年度～令和１１年度

体系

右図のとおり



主な事業

在宅療養相談窓口

医療・福祉関係者のほか、市民からの在宅療養に関する相談を受け付け、必要に応じて訪問診療医等の調整や専門職間の橋渡しを実施

多職種連携の促進

多様化する在宅療養のニーズに的確に対応できるよう、在宅医療に携わる多職種の連携促進とスキルアップのための研修を開催

ACP(ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ・ｹｱ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ)の推進

自身の望む医療・福祉サービスを受けるために、自身の価値観等について、家族などの身近な人や医療・福祉専門職と事前に繰り返し話し合い、意思決定をサポートする取組

重層的支援体制整備事業

豊田市 TOYOTA CITY

安心な暮らし	◎	生きがい（自分らしさ）	○	つながり合い	○

○　重層的支援体制整備事業とは、住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、①相談支援（包括的相談支援事業、多機関協働事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業）、②参加支援、③地域づくりを一体的に実施する事業である。

○　豊田市では「重層的支援体制推進事業」として実施しており、その特徴としては、大きく２点である。

①　特定の所属・機関のみで、相談支援の３事業を実施するのではなく、多様な所属・機関が、これら事業の主体を担っていること。

②　民間事業所等の任意の集まりとして、「とよた多世代参加支援プロジェクト」を設けて、既存で地域にはない新たな支援メニューを創出する取組を進めていること。

包括的相談支援事業

・自所属の対象ではない相談内容であっても、適切に聞き取り、対応できる支援機関につなぐ

相談

本人 ↓　　↓ 本人以外

福祉の相談窓口など

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

・同意のない対象者に対し、支援が行き届くように支援会議を経て情報収集や自宅訪問等を実施し、信頼関係を構築し支援同意を得る

福祉の相談窓口など → 支援会議

多機関協働事業

支援調整アドバイザー R６設置予定

- よりそい支援課
- 保育課 子育て支援センター
- こども・若者政策課 こども・若者総合相談センター
- こども家庭課
- パルクとよた（スクールソーシャルワーカー）
- 保健支援課
- 高齢福祉課 地域包括支援センター
- 障がい福祉課 障がい者相談支援事業所
- 生活福祉課
- 社会福祉協議会（コミュニティソーシャルワーカー、困窮、権利擁護）

・多機関の適切な連携による個別支援の実施

・必要な支援機関を招集し、支援の方針や役割分担を決定

・支援状況の定期的な進捗確認及び終結判断

参加支援事業

既存の支援：地域サロン、お助け隊、交流館自主グループ、子ども食堂 など

支援策がない → 新たな支援メニューの創出・提供

とよた多世代参加支援プロジェクト

民間事業所等の任意の集まり

・地域資源につなぎ、社会参加を促進（まずは有るものを活用）

・既存の支援がない場合、「とよた多世代参加支援プロジェクト」に依頼し、新たな支援メニューを創出する

地域づくり事業

地域介護予防活動支援事業 ／ 生活支援体制整備事業 ／ 地域活動支援センター事業 ／ 地域子育て支援拠点事業 ／ 生活困窮者支援等のための地域づくり事業

・世代や属性を超えた住民同士の多様な場の整備及びコーディネート

・社協ＣＳＷが中心となり、各事業実施者と意見交換し５事業の参加者交流等を図る

Ｒ６より孤独・孤立の予防の観点も含めて、「つながり合い」の創出を進めるため、関係課の新規参加（地域支援課、市民活躍支援課、美術・博物部）

包括的な相談窓口（包括的相談支援事業）

豊田市 TOYOTA CITY

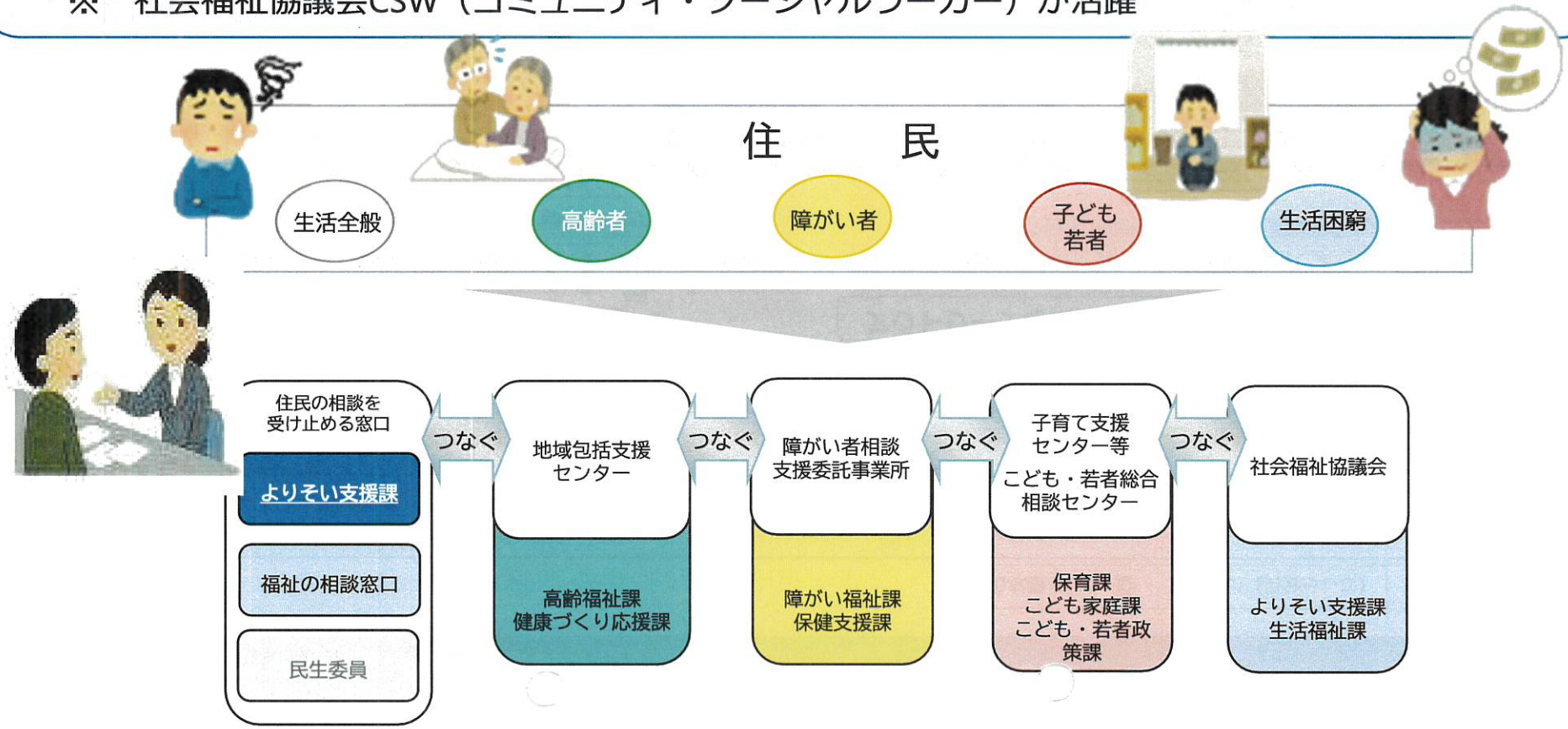
○ **基本事項**

複雑化・複合的課題 → **包括的相談！支援ネットワーク**

○ **対応方針**

総合相談窓口（市役所・支所） → **各種支援機関**

※　社会福祉協議会CSW（コミュニティ・ソーシャルワーカー）が活躍



地域包括ケアシステム

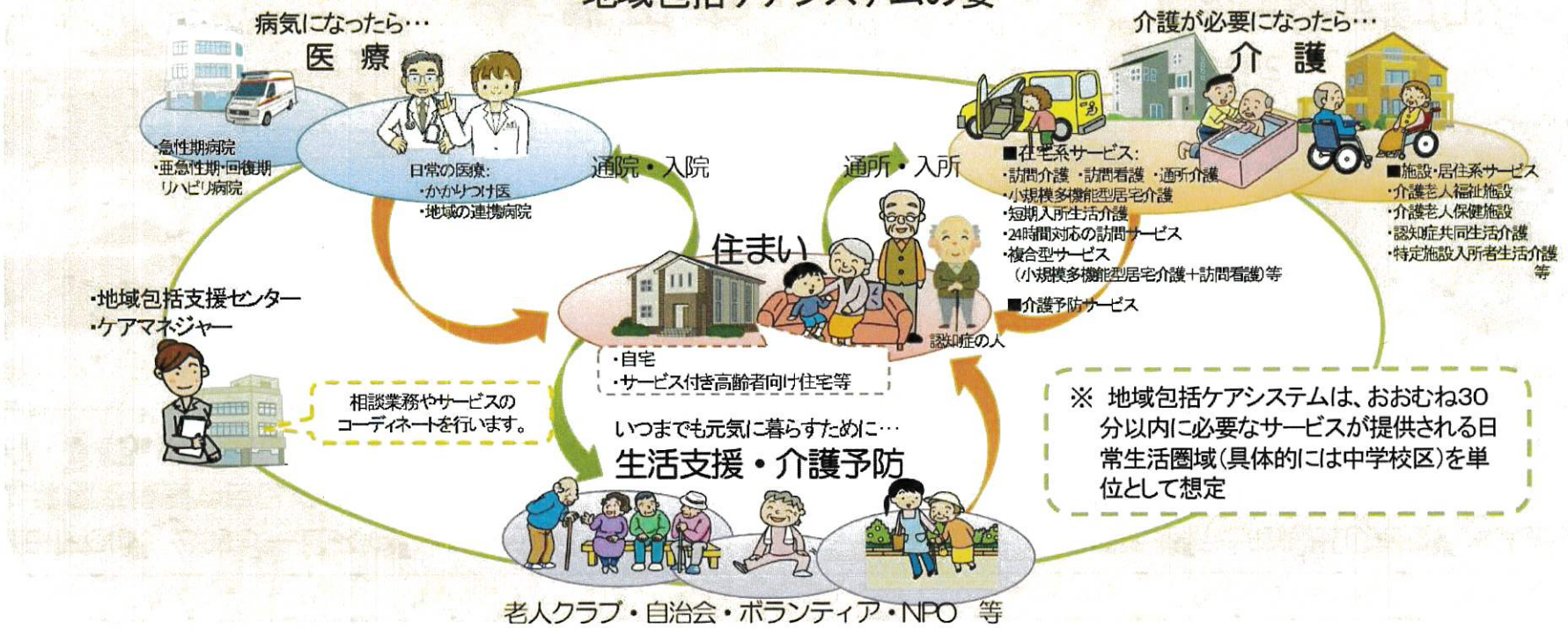
○　団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。

○　今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

○　人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。

地域包括ケアシステムの姿



出典：厚生労働省ホームページ　“地域包括ケアシステム”

豊田市における「参加支援事業」とその支援例

豊田市 TOYOTA CITY

○　豊田市では、公的サービスやつながる社会資源がない場合に、本人に合った居場所を新たに創出したり、本人が落ち着いた環境で役割や自己肯定感を認識できるような社会参加に向けた支援を推進するため、官民連携プラットフォーム（土台・基盤）を構築している。

1

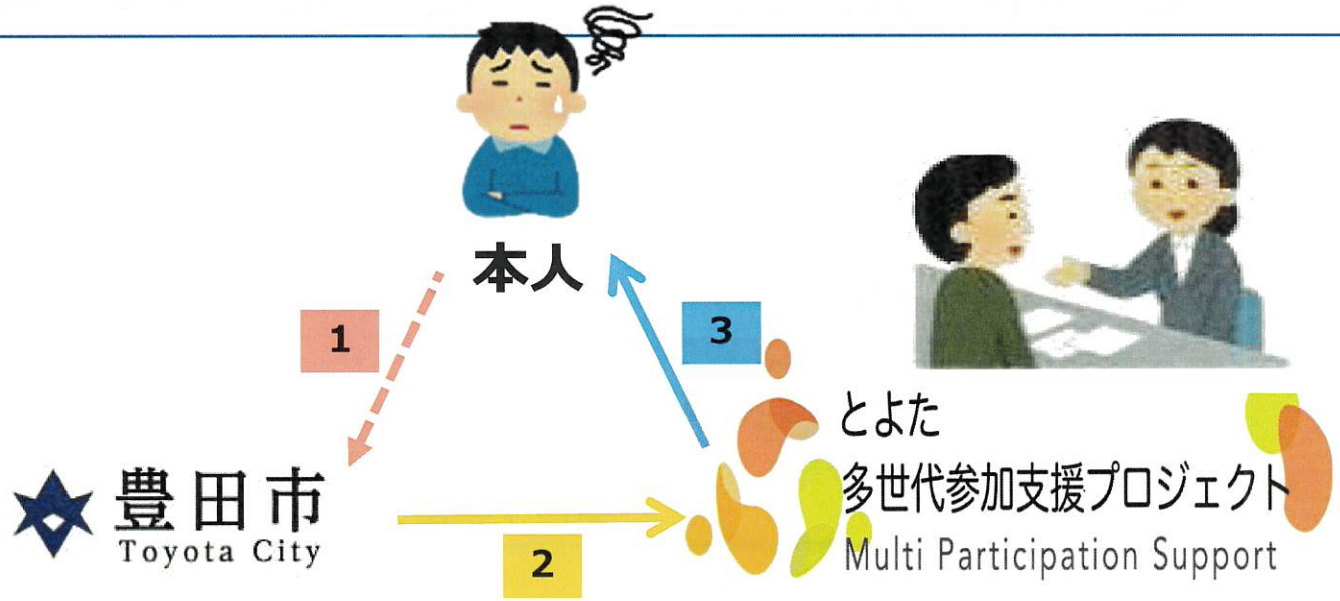
対応できる**既存のサービスがない**

2

民間事業者等の資源を活用したオーダーメイドの支援の調整**依頼**

3

本人に合った**居場所や役割の創出**



【※】 福祉事業所だけでなく、一般企業や農家など市内民間事業所等で構成するプラットフォーム（R６.４月時点：９０会員）

1

○　小学校３年生から不登校状態の16歳。
○　母親と共依存関係にあることから、離れて、本人が他者と過ごし、コミュニケーションを取ったり、自分らしさや役割を感じる時間が必要であった。
○　しかし、見合うような福祉サービスは存在しない。

2

○　とよた多世代参加支援プロジェクトに、支援を依頼。
○　プロジェクトの会員が少しずつ資源を提供。カフェは、お店の裏の作業スペースを提供。和菓子屋が化粧箱折りの作業を提供。ボランティアも別に調整。

3

○　ボランティアとゆっくり過ごす時間を確保。
○　作業を通じて、和菓子屋に貢献し、肯定感を認識。
○　他者との関りを持て、受診等も可能となった。

とよた多世代参加支援プロジェクト

豊田市 TOYOTA CITY

★団体構成（令和6年4月現在）

とよた
多世代参加支援プロジェクト
Multi Participation Support

市内法人又は事業所等 ９０

分野	内数	具体的な事業
高齢者関係	１２	特養、認知症デイ、リハデイ等
障がい者関係	２６	生活介護、就労Ａ/Ｂ型、自立生活センター等
こども関係	５	放デイ、通信学校、企業主導型保育園、プレーパーク等
社会福祉協議会	１３	各支所、出張所
その他	３４	農業家、生花店、学生団体、フリースペース、便利屋さん、部品製造会社、コミュニティ電力、キャンプ場、大学ゼミ、外国人支援市民団体、デザイン会社、清掃業、仏壇屋、飲食店、ビジネスホテル等

地域共生社会を考えるキーワード

連携と人材

考えるポイント

① 今ある資源をどうしたらうまく使えるか？

② まず知ること！　身近なことから考える！

③ 多様な立場・意見を大切に、すべての人のために

第１回の振り返り

地域福祉ってなに

社会福祉制度（制度ごとのサービス）

複合的課題
狭隘のニーズ

社会情勢の変化

障がい者 → 障がい福祉サービス

高齢者 → 介護保険

こども → 子育て支援

生活困窮

社会的孤立

少子高齢化の進展による社会条件の変化
コロナ渦による地域のつながりの希薄化

地域で支えあう機能の低下

困りごとの解決に向けて、ともに助け合う取り組みが求められている
障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしく生きられる地域社会を、みんなで協力して作っていく

地域福祉の必要性

みなさんが経験したり感じた課題、困りごと

サービスのミスマッチによる不安

助けてくれる人がなかなかいない

担当したケアマネでサービスが変わる

いろんなサービスを知らない、使ってない

必要な人に必要なサービスが周知されていない

制度の周知の仕方に課題？

困りごとの解決方法

ネットで調べる

認知症の方に、回収日に近所の人がごみを出しておいてね、と声かけ

身近で知っている人だから、ちょっとお手伝い

関わった窓口やケアマネへの相談

助け合いの基盤

自助

互助

共助・公助

支援やサポートする上での課題

困っているかどうかというのが分からない

困っていませんといわれるいやでと、やたらに手を出せない

協力したい気持ちがあっても個人情報もあり、積極的に関与できない

情報共有が必要だが、共有が過ぎると問題

あまり人と関わりたくない、怖いという感覚も

明らかに困っていて使えるサービスはいくらでもあると伝えるが、拒否される

地域の特性もあって引け目を感じて、声をかけづらい

どの方にどれだけ手を差し伸べたらいいのかというのはすごく難しい問題

人と距離を保つ生活も必要で、おせっかいではいけない

悪気がない一言ひとことが相手を傷付けているかもしれない

本人の意向を聞きながらやっていくことが必要

地域福祉は難しい

あなたが考える地域課題（課題シートから）

受け手の課題

障害には個人差があり、個人に合わせたサービスの提供など利用のしやすさが必要

病院等での音のみの案内など、ろう者の目線に立っていない

介護タクシーの費用が高すぎる

制度的な課題

障害を持っている方、家族の孤立、生活の支援、家族の仕事の支援

障害者を支える家族のケアを行う専門機関の設置

必要とする人に必要な支援が与えられる仕組みを考える

ワンストップ窓口対応

担い手の課題

困っている人のこともわからない

何を求めているのかと言うことが分かってあげられないもどかしさ

おせっかいや自己満足だと思い、支援できない

人とのかかわりあいの大切さ

ご近所の人を良く知る

第２回の振り返り

第１回の議論での課題感を踏まえ、肢体、視覚、音声言語などの状態別に、日常生活で直面する状況や場面を想定し、支援についての課題、解決に向けた方向性を話し合った。

論点①：支援（サポート）を必要とする人と状況

障害者が日常生活で直面する支援（サポート）を必要とする状況や場面を想定し、話し合った。

日常生活で直面する課題	具体的な状況・場面
移動の困難さ	・公共交通の利用 ・災害時の避難 ・混雑した場所や長距離の移動
公共施設の使いづらさ	・自動ドアでない建物の入り口 ・階段、段差での移動 ・案内表示が小さかったり、色の濃淡がなく見えにくい
情報アクセスの制限	・案内看板や信号が見えにくい ・緊急時のサイレンや放送が聞えない
コミュニケーションの障壁	・医療機関の受診 ・電話やインターホンの利用が困難 ・電話で話すのが難しい
社会的孤立	・就労機会の制限 ・地域イベントや余暇活動への参加制限 ・友達とのおしゃべりなど交流機会の制限
差別や偏見	・採用時の不当な扱いや待遇面での不平等な扱い ・能力の過小評価など、誤解や偏見

論点②：支援（サポート）の担い手はだれか、あなたならどうする？

論点①で挙げられた課題に対して、そのような場面に出くわしたならあなたならどうする、また、誰がどのようにサポートできるかについて話し合った。

論点③：支援（サポート）を思いとどまらせる（躊躇、阻害）もの（壁）は何か？

受け手と担い手の両面からサポートする際の障壁について話し合い、これらの障壁を取り除くための解決策、アイデアを出し合った。

※ 当日の議論・改善提案シートから整理

例：支援を必要とする人／肢体障害（車いす利用者）

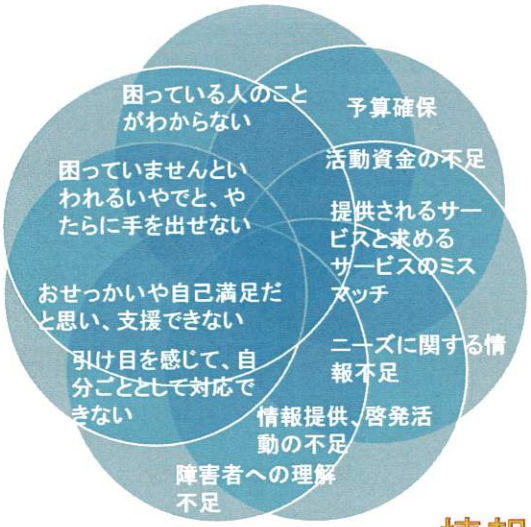
担い手	あなた	地域（コミュニティ）	行政	その他（社協・民間企業）
方法	・車いすを押す、持ち上げるなど手伝いを申し出る ・安全なルートを案内する ・スロープの設置場所を教える	・地域の状況調査を行い、バリアフリー化の要望 ・ボランティアによる移動サービス、外出サポートの提供（地区社協） ・住民同士が助け合える環境の醸成	・バリアフリー化された公共交通機関の整備・補助 ・公共施設、歩道などのバリアフリー化 ・地域のリーダーとして活動できる人材の育成	・車いすの購入や修理の資金提供（スポンサー、広告） ・乗降を補助する職員の配置 ・障害者サポート研修の実施
壁（躊躇、阻害）	・困っている人のことがわからなくて、声をかけることができない ・現実に目にする機会がないと自分ごととして対応できない ・身近でない人と関わりたくない、怖いという感覚	・障害者への理解不足 ・ボランティアの人材不足 ・活動資金の不足	・予算確保 ・政策優先順位 ・専門知識を持つ職員の確保	・投資回収の困難さ ・法的規制や基準への対応コスト ・障害者のニーズに関する情報不足

議論から見えてきた支援を思いとどまらせる（躊躇）、拒む（阻害）もの【壁】

心理的、認知的（受け手・担い手）な壁

無関心の壁

時間やコストの壁



思い込みの壁

支援組織・体制等の壁

属性（地域・環境・経験）の壁

情報不足（共有）・コミュニケーションの壁

課題解決に向けての整理

障がい者のことを考えるうえでの問題意識

- 障がいの種類や程度は人によって異なり、個人差が大きい
- 同じ障がいでも、その影響は環境や周囲の理解によって大きく変わる
- 障がいは目に見えないものも多い

高齢者やこどもは、自分が過去にそうであった、または将来必ずそうなるという意味で当事者になりうるが、障がい者は潜在的、確率的には誰もが当事者になる可能性はあるものの、その立場になってみること（自分ごと化）は難し

さまざまな課題や壁を乗り越えて、すべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことが重要

課題や壁（躊躇・阻害）の解決を考える上での3つの方向性

方向性	ありたい姿
①人材育成、活動を支援する ②当事者の話、意見を聴く ③障がいを社会の側の問題としてとらえる	障がいの有無にかかわらず全ての人が安心して暮らせる社会の実現

B班：前橋市の子どもと子育て

2025/1/19

現状：子育ての悩みや課題を解決できる人やサービスは前橋市に存在するが、支援を必要とする人に支援の手やサービスが十分届いていない

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
1	・子育てで困ったことや悩んだとき、どこに相談したらいいのかわからない	・情報伝達不十分	・自ら情報取得する姿勢 ・日常的なコミュニケーションのネットワーク	知る「場」環境づくり	・伝える仕組み ・知る仕組み ・相談サービス等の周知	・地域住民や市民とのコミュニケーションを普段から心がける ・相手から困りごとを聞き出す ・情報を取りに動いてみる	・公民館などを開放し居場所やコミュニケーションの「場」を作る	「いつ」「どこで」「こんなことをする」という案内を具体的に伝える	
2	・個々の困りごとの相談窓口がないまたは、わからない	・情報伝達不十分 ・当事者の関心不足	・コミュニティやLINEグループ等横のつながり	・身近な相談サービスの目立つ化	・伝える仕組みと工夫	・何でも相談できるコミュニティがあるといい ・子育てグループ、ママ友などのコミュニティの横のつながりやLINEグループで情報共有	・相談サービス（無料）があったらいい	・より敷居の低い行政サービスがあるといい ・公民館など身近な場所での差0−ビス提供や連携	
3	・市がなにをやってくれるかわからない ・どういう福祉行政があるか知らない ・情報がまわってこない	・情報の不足 ・積極的に情報入手する姿勢の不足	・自ら情報を取りに行く姿勢をもつ	・福祉行政について日頃から語りあう場を設け関心を喚起する	伝える仕組みと工夫	・広報などを見る ・知っている人は周りの人に話したり、教える ・SNS活用 ・市のイベントに参加	・ポスター、お知らせ、回覧板 ・地域内での声がけをする	・わかりやすい（硬くない）表現でSNS活用した情報発信 ・学生が活用する手段を活用し学生にも伝える	
4	・市の情報発信が少なくわかりづらい ・支援情報を発する人と受け手双方の顔が見えない	・情報の浸透不足	・行政と市民がお互いの立場に立つ	・知る「場」環境づくり	・伝え知る仕組み	・身近な自治会館、公民館、ボランティアセンター等を積極的に利用する	・公民館や自治会館、班などがコミュニティレベルで回覧板やポスターで情報発信する	・受け手の立場に立った伝達 ・近隣コミュニティ施設と連携して情報発信をする、または手助けをしてもらう	
5	・行政に相談しても窓口のたらいまわし	・共感不足による不安と不信感	・相手の立場に立ち対応	・より身近で小さな公民館で対応	・相手のニーズを知る仕組み	・市民間で情報共有 ・SNS等で自分で調べる		・来訪者の立場を理解し思いやりで接し情報提供する ・相談窓口の一本化	・支援してもらい嬉しいことは口コミで拡散される！
6	・市民が既存サービスをわかっていない ・無関心で自ら情報入手の努力をしない	・情報の不足 ・積極的に情報入手する姿勢の不足	・積極的な情報収集の意識	・知る「場」環境づくり	・関心をもってもらえる伝え方	・自ら進んで情報収集する ・井戸端会議等で口コミを広げる ・SNSの活用	・回覧板に情報を載せる	・既存サービスをよりわかりやすく伝え利用促進する改善	

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を 阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
7	・困っている人が必要としている 支援内容が明らかになっていない	・双方の情報不足	・顔の見える関係づくり	・知る「場」環境づくり	・伝え知る仕組み	・困っている人の話を聞く	・困っている人の困りごとに気づき地域住民で助ける	・困っている人の意思を聞いた上で支援の仕方を考える	
8	・市のHP掲載情報にアクセスしにくい	・情報伝達の方法			HPのわかりやすさやUI改善	・意見を行政に伝える ・個人もSNS活用し情報連携		・必要な情報にアクセスしやすい公式HP作成やSNSの活用	
9	・市の地域福祉計画は網羅的だが 市民に十分アピールできていない	・理解に至る情報伝達が不十分			福祉計画をわかりやすく周知徹底			・地域福祉計画をよりわかりやすい方法で市民に周知徹底する	
10	・そもそも支援を必要とする人の情報を知る機会がない	・双方の情報不足	・顔の見える関係づくり	知る「場」環境づくり	伝え知る仕組み	・福祉について学び、意識をもつ	・井戸端会議で情報交換する	・広報や公民館で情報提供	
11	・課題を解決できる人や組織はあるが、 支援しあえるマッチングの仕組みが無	・双方の情報不足 ・知る仕組みがない			お互いを知り需要と供給をマッチング	・個人としても助けを必要とする人に対し日頃から関心をもつ	・情報連携強化	・マッチングの仕組み立案 ・双方が得意なことを行いWinWinになる仕組みづくり ・ポイント付与する	
12	・支援者と支援を受け取る側の間に 壁がある	・人間関係の薄さ ・情報不足と共感不足	・顔見知りの人間関係構築 ・積極的な活動参加の意識付け	・知る「場」環境づくり	・改善モチベーションになる仕組みづくり	・支援を必要とする人に気づいたら積極的に情報を伝える声がけ ・地域行事への積極的参加と声がけ	・コミュニティの充実、支え合いの底上げ ・行政の対応に限界があるので、ある程度は地域で解決できるのが理想	・学校での授業で取り入れる ・世間体、無関心、知る機会の少なさに対する問題解決 ・支援する人と支援を必要とする人の情報提供マッチング	
13	・困難に直面してる親が、 悩みを発信できていない	・責任感で頼るという弱みを見せられない ・親や親戚への恥意識 ・頼る習慣がない	・発信する親の責任の自覚	・気持ちを自然に伝えられるきっかけの場づくり		・困ってることはない？と声がけすることで知ることができる ・おせっかいを焼きつながり作り		・SOSは悪いことでないと周知してほしい（本人だけでなく社会全体に伝えることで本人の心理的負担も軽減してほしい）	
14	・支援が必要でもSOSを出しにくく孤立	・声を上げることへの心理的ハードル ・世間体	・声を挙られる関係性構築 ・声を挙げることの責任感の意識づけ	・SOSに耳を傾ける前提の信頼できる関係性構築		・広報などで情報収集し声を上げる	・声がけ	・SOSは悪いことでないと周知してほしい（本人だけでなく社会全体に伝えることで本人の心理的負担も軽減してほしい）	

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
15	・自身が困っていることを正しく認識し、 解決のための情報を引っ張ってくる親の力が足りていない	・正しい自己認識	・自身だけで抱え込まず、状況共有できる信頼できる人間関係		・支援に関する講座受講	・自ら行政や知り合いに情報を取りに行く努力	・周りに困っている人がいないか周囲の人の生活にも関心をもつ	・相手の立場に立ち相談歓迎の姿勢を見せる ・わかりやすい窓口 ・支援サービスの講座開設	
16	・初産時情報が足りないことによる不安	・情報浸透の不足	・横のつながり			・同年代お母さんネットワークからの情報収集	・医療機関等での情報提供強化	・せっかくあるサービスを妊婦さんにタイムリーに提供	
17	・どんな親にもあるちょっとだけ助けてほしいニーズに応えてもらえていない	・信用、信頼でき頼れるか相手か不安 ・情報不足	・一人で抱えず悩みを安心して相談できる人間関係	・地域のベテラン高齢者による支援	・信頼ベースの支援マッチングの仕組みづくり	・住民どうしの平時からのコミュニケーションを密に行い、助け合う		・高崎市例：1時間250円程度の「子育てSOS制度」等 ・前橋市：ファミリーサポーター制度の周知	
18	・引きこもりや、不登校児童や親の、心や身体の支援がないことでの孤立	・情報不足 ・支援制度不足 （ファクト要確認）	・一人で抱えず悩みを安心して話せる人間関係		・引きこもり支援を学べる講座や情報提供サービス			・「ひきこもりの人を対象」講座名は引きこもりの人は参加しにくいのでハードルを下げるネーミングの工夫が必要 ・引きこもりや不登校児童の家庭支援の一層の充実と情報伝達	
19	・不登校や学習障害など、学校に行けない、なじめない子供の将来の生活が不安	・将来への支援サービスが不十分 （ファクト要確認） ・情報の不足			・学校や行政による積極的な支援制度			・学校や行政による子ども補将来を見据えた積極的な支援制度	・多様性を重視した企業の職場採用
20	・ひとり親家庭の支援は十分か	・声をあげにくい ・経済的課題 ・支援の充実 （ファクト要確認）	・声を挙げることに対する責任感	・声をかけ合いやすい地域の関係構築		・横のつながり強化	・声がけ	・ひとり親の支援ニーズにあった支援サービスの提供	
21	・ヤングケアラーの支援や対策は十分か	・顕在化しにくく見えにくい現状	・周囲の住民による関心と気付き	・子どもへの近隣住民の日常的な声がけ		・見守りと声上げ	・見守りと声上げ		・学校教育者による気付きと声がけ

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を 阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
22	・住民どうし、 特に元から住む人と新しく住む人の 交流が不足し、関係が希薄化している	・身内とそれ以外意識 ・知らない者への無関心	・新しい住民を受け入れる姿勢	・お互いを知る機会づくり ・公園の草刈り等活動を共に		・元から住んでる人が積極的に声をかけ顔見知りになる ・新しい人が参加しづらい雰囲気を作らない ・ベビーカーに子どもを乗せ地域活動に積極的に参加する ・自分から挨拶し顔を覚える、自分の子どもが良くも悪くもこんな子どもだと知ってもらえるように	・お互いを良くも悪くも知ることで安心して話せるようになる ・下の名前で呼ぶ関係に ・地域の公園の草刈りを共に行う	・引っ越してきた住民に班長を確かめ赴き教えてもらうことを勧める	・自治会、育成会、愛護会が働きかける
23	・子どもの健全な心の育成	・教育内容と 教育体制			・学校教育の内容と教育人材の育成	・家庭でできる教育	・子供たちへの目配りや声がけ ・文化活動や運動活動への声がけ		・学校や教育委員会のカリキュラム強化 ・育成人材の強化
24	・社会全体で子育てを行なえていない	・地域住民の子育て家族への関心の薄さ	一人ひとりの子どもへの関心	一人ひとりの子どもへの関心		・地域の子どもへの関心と日常的な声がけ	・地域の子どもへの関心と日常的な声がけ		
25	・子ども同士のつながりが少ない	・放課後の安全確保 ・塾や習い事等子どもの忙しさ		安心して遊べる公園等、地域の場づくり		・子どもの活動を見守る	・子どもの活動を見守る ・治安のいい地域づくり		
26	・母親と比べ父親が、 子育てに十分参加できていない	・働き方による制限 ・父親の子育てに対する意識の薄さ	・父親同士の関係構築	・親が働く環境の改善		・父親同士のコミュニケーション強化により意識変革	・保育園等で父親をイベントに巻き込み子育てを実際に体験		・企業の男性育児休暇取得推進とそれを可能にする体制整備
27	・経済的理由から仕事優先で子育てや 行事参加がままならない親がいる	・経済的不安 ・時間的制限のある生活環境			・働き方改善 ・必要十分な経済的支援			・経済的支援が必要な家族への支援	・企業の子育てにかける時間等への配慮 ・各企業 ・子育てを応援している企業名を公開する（育児休暇取得率何%等）

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
28	・育児休暇が十分とれず 子育てや学校イベントに参加できない	・労働就労環境		・育児休暇制度があるだけでなくお互い取得推奨できる職場づくり	・法定通りの育児休暇取得の徹底				・男女ともに職場における法定通りの育児休暇取得の徹底
29	・地域の人との交流が少なく情報入手機会が減り結果、市民どうしが無関心	平時からの ・顔の見える関係性 ・個人情報保護対応	・顔見知りの関係構築 ・自ら参加する姿勢	・受け入れる「場」環境づくり		・顔見知りになる ・情報を知ろうとする努力 ・一歩を踏み出す勇気	・受け入れる場づくり ・地域行事の開催 ・情報発信	・個人情報保護とほどよい地域の関係構築の両立が可能であることを伝える	
30	・知らない人がいる所は怖い、 ・外に行く時間がない等の理由で横のつながりを作れていない	・人と人の関係性 ・顔の見える関係性	積極的な活動参加の意識付	知る「場」環境づくり		・イベントに参加する ・外に出る（公園、児童館等）	・イベントの開催（小さなコミュニティ） ・お知らせの周知	・イベントの開催 ・イベントの補助金	
31	・給食費無償化や、こども手当てが高校生までになったことなど良い情報も共有の場が少ない	・雑談や交流機会の少なさ	・自ら話しかける	・情報発信、相談、交流の場等きっかけづくり		・夫婦や知り合い間での情報共有 ・SNS等の活用	・まつり、フェス、音楽フェスで交流や相談		
32	・市民の福祉に対する関心の低さ ・子育て福祉の現状と重要性に関し学んだり話し合う授業や講座受講機会がない（少ない）	・知る機会がなく無関心、無理解 ・そもそも関心持たれない、という思い込み	・積極的な活動参加の意識付け	・知る「場」環境づくり	・高校や大学の授業で子ども福祉に関する講座づくり ・知るモチベーションになる仕組みづくり	・授業や講座に積極的に参加 ・今回のようなワークショップに積極的に参加	・子育て福祉を学ぶ講座を開催、参加する ・子育て中の親や、福祉活動をしている人の話を聞く会を催す	・学生ボランティアによるイベント開催 ・単位取得に寄与する証明書等発行することで、学生は自身のためにも参加する	・１学期に１回は学校の授業として学ぶ時間をとる（１年に１回でも） ・大学や高校でボランティア参加を推奨する ・ボランティア参加を授業の単位とする
33	・忙しい高校生が地域の活動に参加する機会や高校生向けの活動が少ない	・高校生も対象にする地域活動の参加機会の少なさ ・高校生の時間の使い方の優先度	・高校生の積極的な活動参加の意識付け	・高校生の地域イベントう等への「参加機会」環境づくり		・参加を誘う	・小学生だけでなく中学生・高校生も対象にしたイベントも行なう	・自治会の協力	・小学生の時は地域のイベントに参加することが多いが、中学生から段々少なくなる ・時間がない、忙しいのも理由

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を 阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
34	・地域福祉は行政がやるもの、という思い込みによる市民の無関心	・思い込み ・他人ごと	・今回のようなワークショップに参加し自ら考える		・公民館というリアルな居場所を軸に子ども福祉を展開	・より身近な顔見知りのスタッフと話すことで無関心が変わる	・公民館を軸に子育て支援サービスを提供する	・市役所より小さく身近な公民館でサービス提供することで身近に感じる。ワンストップ総合受付 ・公民館維持管理の負担 ・公民館運営の人件費補助	・公民館で読み聞かせ、一時預かり、子育て支援も
35	・18歳を迎えた子どもの投票率が低さ	・学校教育内容 ・教育者			・学校教育	・より政治に関心をもち、日々の話題にする			・学校において、一票の意義と責任を教える
36	・強制的でない、有志による支え合い活動の必要性	・支援は強制ではなく市民の自由意思の尊重	・市民一人ひとりが考え行動する	・自身が支援できる対象（人や場所）を探す		・市民がそれぞれ日常生活の中で無理なく継続できる方法で支援を行なう	・さまざまな人による支援活動を市民に共有しお互いを知る		
37	・市民どうしが広く助け合う「Win Win」の仕組みを整備したい	・縦割りの担い手 ・連携不足			利害関係者が得意領域を担い協力し仕組みづくり ・ニーズのマッチング ・補助金や助成金	・誰かが一方的に支援を受けたり、誰かが一方的に支援をするのではなく、市民どうしが幅広く双方向でできること、得意なことを担い支援し合う考え方を広げる	・老人会の人に手伝ってもらう ・自治会が取り組みを拡散する	・市の職員、県の職員がスキームを設計 ・補助を県とか市が出す ・マッチングの機会を作る ・補助金、助成金を設ける	・企業とかＮＰＯが実働を担い、町社協のように学生を入れられるシステムを作る ・民生委員とか地域の区長さんとか包括 ・社協 ・民生委員 ・自治会 ・企業・NPO (運営実施など実働部隊)
38	・子どもの見守りや学童期の不安、夏休み中等、核家族化によるサポート不足 ・場所や人の確保が困難	・預かり制度の不足	・関係構築で頼りになる人の見極め	・預かり施設の環境強化	持続可能な見守りサポート体制の仕組み	・地域の人や頼りになる人を作る（友人・親同士のつながり等）	・育成会活動、自治会活動 ・見守りサポート体制を構築する ・父母会、PTA活動	・持続的な預かり体制確保の仕組みを作る	・民生委員 ・NPO法人 （活動がスムーズになるような運営）
39	・子どもの預け先への不安と金銭的負担の重さ	・支援施設の不足 ・経済的ハードル	・関係構築で頼りになる人の見極め	・預かり施設の環境強化	世代間支援の仕組みづくり	・親や親族に預ける ・子連れ出勤	・見守りボランティア（引退したシニア世代） ・安価で安全に過ごせる居場所 ・人手の確保	・夏休み等長期休みの預かりシステム ・学童の場所として公民館等公共の場の開放（自由度高）	・学童を必要としている人が多く、小学校高学年の人は通えない状況がある
40	・経済的な支援を必要とする家族の存在	・貧困と経済的不安	・安定的な就労	・地域内の雇用機会増		・支援情報へのアクセスと共有		・教育支援、生活支援、就労支援、生活支援等	・NPOによる支援等

	解決したい具体的な課題 「市民委員の声」	課題解決を 阻害する要因 「壁」	解決方法			住民の役割		行政の役割	その他団体の役割 追加コメント
			① 人の意識 人間関係	② 環境づくり	③ 仕組みづくり	個人としてできること	地域としてできること		
41	・子ども（子育て）ヘルパーがいない ・親も自分時間確保したい	・支援サービスの不足		・預かり施設の充実	・専門窓口を作り仕組み化	・情報入手と共有	・情報共有	・子育てヘルパー窓口を作る	・福祉協議会の協力 ・高崎市は250円で利用可能
42	・通学路や子どもの生活圏内の雑草は交通事故の原因になりえて危険 ・草刈りの責任の所在が不明 （公共、自治会、育成会）	・安全性に欠ける生活環境	・自治会・育成会・企業の連携強化	・地域連携による安全な通学環境づくり	・連携支援しやすい仕組み ・専門家の動員	・通学路の把握 ・身近な危険なポイントを発見し行政に伝える	・自治会、育成会として草刈り会 ・多数で行えば、安全対策もできる（交通誘導員、ガードマン等）	・支援に対し、お茶代ぐらいの予算確保 ・刈った草ゴミの処理	・自治会、育成会、愛護会 ・草刈り技術の説明会を専門業者を呼び実施する
43	・公園の高木の枝落下が危険（落木、枯れ枝等）あるいは雑草が育ち遊べない ・公園の数が多く、樹木の育成状況と危険度の調査が必要	・安全性に欠ける生活環境	自治会・育成会・企業の連携強化	地域連携による安全な遊び場づくり	・連携支援しやすい仕組み	・身近な危険エリアを発見し行政に伝える	・地元の人たち（自治会）でできる範囲はやる（草刈りや視認性の悪い低い木の手入れ）	・公園内の刈った草ゴミ、落木、枯枝の回収処分	・地元自治会、愛護会 ・視認性の悪い公園で子どもを遊ばせるのは不安 ・急に公園から道路に飛び出す危険も
44	・死角や暗い場所、治安不安のない安全な町づくり	・治安悪化 ・安全性に欠ける子どもの生活環境	・地域の子供全員に対するアテンション	・顔見知りの関係構築	・危険情報のタイムリーな連携	・気がついた時は躊躇せず声がけ	・平時から顔と名前のわかる関係構築	・SNS等で危険情報のタイムリーな注意喚起情報発信	

「前橋、こんなまちになったらいいなあ」　私たちが考える3つの方向性

1 人材育成・活動を支援する

方向性		
障がいを正しく理解し、お互いを尊重し合える関係を築く 困っている方がいたら声をかけたり、手助けしたりする文化を育てる		
状　況	取り組み	具体例
自分ごととして対応できない		
知らない人にはかかわりにくい		
声をかけずらい		
おせっかいや自己満足だと思い込む		
目見えない障害がある		

2 当事者の話、意見を聴く

方向性		
様々な困難に直面している経験や知恵は、社会をより良くするための貴重な情報源 人々の生活に関わる決定や計画を立てる際には、当事者の意見を聴く		
状　況	取り組み	具体例
困っていることがわからない		
施設や交通機関が使いずらい		
人混みやストレスの多い環境が苦手		
役所や金融機関での手続きが苦手		
差別や偏見		

3 障がいを社会の側の問題としてとらえる

方向性		
障がいは個人の問題ではなく、社会の側が作り出している問題としてとらえる 社会の側を変えることで、誰もが平等に参加できる社会を作る		
状　況	取り組み	具体例
歩道やトイレが使いずらい		
階段や段差があると移動が困難		
信号機の色の変化が見えにくい		
案内看板が見えにくい		
必要な情報を得ることができない		
自分の意志を伝えることが難しい		
緊急時や災害時の対応が困難		

前橋市の子育てと子育て支援の
ありたい姿を実現するための３つの方向性

① 人づくり

- 社会の主役・担い手である**地域の市民一人ひとり**が、子育て支援について**理解を深め**、より深く**つながり**、**多くの人が活動に参加**することで課題を解決する

② 環境づくり

- 地域の**さまざまな主体が連携**しながら、課題解決に挑むことができる**社会生活のリアルな場やプラットフォームを作り、活用**することで課題を解決する

③ 仕組みづくり

- **いつでも、どこでも、誰がやっても**、効果を出すことができる**再現可能な方法やルールを構築し、運用**することで課題を解決する

（第一回、第二回の議論から）

前橋市の子どもと子育て支援の現状とありたい姿（暫定）

【現状の課題】

市民の子育ての悩みや課題を
解決できる人やサービスは
存在するが、

必要な情報が十分伝わらず、
支援を必要とする人に支援の
手やサービスが十分に
届いていなかったり、時に
悩みを抱えたまま孤立している
子どもたちや親もいる

【ありたい姿】

地域交流の場で顔見知りの関係があることで、全ての子どもと子育て中の親が、支えが必要な時に「困っている」「助けてほしい」と躊躇なく声を挙げることができ、

支援が必要な人と手を差し伸べることができる市民・社会・行政、企業等がマッチングされ、それぞれが自由意思で得意なことを活かして課題を解決していくことで

子どもも親も安心して暮らせる状態

前橋市 地域福祉市民ワークショップ
C班「高齢者」第3回 進行資料

本日の流れ

やること

①ナビゲーターから話題提供

②第2回の振り返り

③↑をもとに話し合い

使うもの

①本資料

②第2回 議事要点整理

③第2回 改善提案シートまとめ

つくるもの

①改善提案シート

②アンケート

【補足】

- 改善提案シートを全員が記入することを目標にします
- 最終的につくられる提案書には、理念として議事内容が、具体案として改善提案シートの記載内容が反映されるイメージです

ナビゲーター講演（話題提供）

論点になりそうなもの

もっと深く掘れそうなところがある

① 外に出られない人の孤独は、結局のところどうやって解決する？

② 心理的な「世代間のギャップ」を埋めるためにできることって何かない？

③ 老々介護って大変そうだけど、実際のところはどんな感じ？
誰に聞いたらわかる？

④ 「家族のケア」って何ができるの？

⑤ 「若い世代へ支援策を浸透させる」には、教育機関の助けが必要なのはわかるけれど、SNSって誰が発信するの？

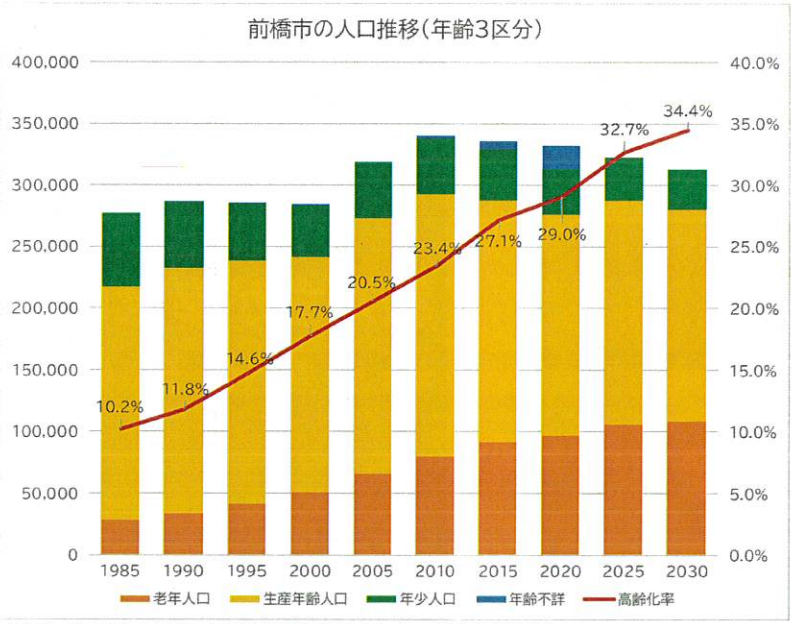
話し合い

話し合い

別紙 1

前橋市 地域福祉市民ワークショップ C班「高齢者」第2回 議事要点整理

現状1　少子高齢化の実態



出典　2020年以前：国勢調査（2000年までは旧前橋市）
2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所の推測値

人口統計・推計データ

2020年時点の人口 332,149人

- 0～14歳　41,961人（11.1%）
- 15～64歳　179,561人（54.1%）
- 65歳以上　91,143人（29.0%）

読み取れること

- 稼ぎ頭＆地域の担い手の中心世代は人口の約半分（半分以下？）
- 子どもが少なく、増える見込みも薄い

従来の仕組みとやり方では お金も担い手も不足する （年金・税金・介護・医療・社会保障）

現状2　単なる高齢者増加ではない

要介護（要支援）認定者推移

出典　第9期まえばしスマイルプラン
「認定者数及び認定率の推移」

一人暮らし高齢者世帯推移

出典　第9期まえばしスマイルプラン
「本市の世帯数と高齢者を含む世帯の割合」

**助けを必要としている人が増加しており、
かつ一番身近な支援者である「家族」の手助けは
得にくくなってきている**

手遅れになる前に、今動く必要がある

「私たちにできること」
から始めて、周囲の力
を借りながら乗り越える

少子高齢化

要介護者の増加

担い手不足

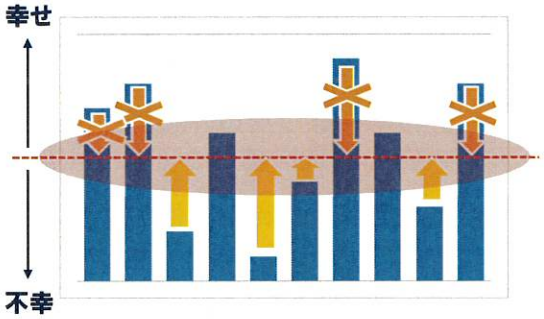
**課題
壁**

**私たちが幸せに
暮らせる前橋**

はじめに　～「福祉」の概念整理～

もし仮に「幸せ」をレベル化できて、幸せと不幸の境目があったら、前橋の高齢者福祉では、どれが重要だと思うか？

- ①不幸な人 を 幸せ にする
- ②幸せな人 が 不幸 になるのを食い止める
- ③普通の人 を 幸せの方向に引き上げる
  （≒全体的に底上げする）



【意見】
- 改めて聞かれると難しい
- どれも大事では
- 困っている人、不幸な人こそ救うべきだから①
- 多くの人を対象にするなら③
- ②・③だけでは幸せの閾値が上がるだけ

- 「間違いなくこれ」とは選べなかった
- あえて言うなら「全部大事」

最悪な状況を思い浮かべて現状深掘り

- 今までできたことができなくなっても、生計を立てなくてはいけない
- 80代は認知症リスク高
  - 食事、風呂、計算…ができなくなっているのを目の当たりにしている
  - 契約行為ができない
    - 入退院、介護保険、施設入所、…いろんな契約行為がある
    - 誰がやるのか
      → 家族、後見人

- 最も身近な支援者は家族
- 家族の負荷も大きい
  - 老々介護（家族も高齢化）
  - 家族目線だと、デイサービスでは在宅時間帯の支援が必要
  - ショートステイならば、何日間か預けられるので休むことができる
- 果たして、施設に行ければ幸せなのか
  - 支援してくれる人がいるし、同じ境遇の人が周りにいる
  - それでも、孤独や不満もある

今までできたことができなくなる【身体的・精神的】
- 後期高齢者・超高齢者
  - 寝たきり
  - 認知症
- 生活基盤が失われる
  - お金がない
  - 家がなくなる

孤独・1人になってしまうこと
- 他人との関わりがあれば…
- 頼りにされればもっといい
- 支援者（家族）がいない
- いよいよ…というときに、家族がいても看取ってもらえないのはさみしい

では、どうしたら幸せになれる？

- 自分だったら「どう死にたいか？」と思った
  - なるべく幸せな場所、幸せな生き様・死に様（病院で治療を受け続ける？家族で看取ってもらう？）
  - 動けなくなったら介護施設に入って、人生の終焉は看取ってもらえる
- 困ったときに、必要な情報とサービスを得られるように
  - 「成年後見制度」など、世の中には知られていないけど便利・素晴らしい制度がいっぱいある
  - 結局のところ、手続する人が知らないと使えない
  - 特に若い世代は高齢福祉制度に詳しくない
    - SNSで周知すればいいかも
    - 学校で教えて欲しい
- 元気じゃなくなる・孤独になる前に声掛けが大事
  - 担い手不足。誰が担い手？
  - 民生委員、自治会、老人会、ケアマネ、近所の人、家族

自分のことを自分で決められる

自分らしくあれる環境

- 自分のことを自分で決めて、自分でできる（動く）ことができるのが幸せ
- 元気な高齢者には元気なままいてもらう
- 行動や精神が制限される人にも、「選択の自由」をもってもらいたい

孤独じゃない

- 周りから頼られる
- 社会の中で役割がある
- 信頼されている
- 支える人がいる

第2回議論内容 まとめ

高齢者のおかれている状況

- 単身世帯化・高齢2人世帯が増加
- 身体機能の低下
- 認知症による判断能力の低下
- 経済的な不安
- 孤独感

➔ 今までできていたことが、できなくなる

高齢者を支える人の状況

- 家族の負荷が大きい
- 老々介護が増加
- 仕事に介護に休む暇がない

施設や支援サービスがあるが…

- 経済面の壁
- 手続きの煩雑さの壁
- 知識の壁（どんなサービスがあるか知らない）

ありたい姿・目指す前橋の環境

- 自分らしく生きるための選択の自由【自分のことは自分で決めて、自分でやる】
- 孤独を感じない環境

これから必要なこと

- 元気な高齢者は自分のことを自分でできる
- 行動や精神が制限される人には、自分のことを自分で決める「選択の自由」を
- 孤独を感じさせないためには、頼られる、役割がある、信頼されている、支える人がいることが重要
- 最も身近な支援者たる家族へのケアも必要

どんな支援が必要か気づくために

- SNSや教育で、若い世代へ支援策を浸透させる
- 孤独になる前、体調を崩す前に声を掛け合う

別紙 2

前橋市 地域福祉市民ワークショップ C班「高齢者」第2回 提案まとめ

第2回 改善提案のアウトライン

改善提案は18件
大きく3つにカテゴライズすると次のとおり

カテゴリー	課題概要	解決策概要
人づくり	高齢者の孤独、自由な選択と行動の制限	地域の担い手づくり、みんなの意識改革
環境づくり	地域住民のつながりの希薄化	担い手とのマッチング、地域の祭りやイベントの開催
仕組みづくり	情報伝達と団体間連携の不足	伝達手段の構築と様々な主体の連携

1　人づくり

■ 主体性を育て、担い手を増やし、孤独を防ぐ

- 一人ひとりが地域の高齢者福祉に関心を持ち、担い手として主体的に活動する。
- 高齢者と支援者の双方を支える、温かい地域社会を築く。

■ 課題

- 高齢者の孤立
- 地域活動への参加意欲低下
- 高齢者に対する理解不足

■ 壁

- 人間関係を作るきっかけの減少
- 日常生活の忙しさ、体力的な不安
- 世代間の価値観の違い、情報不足

■ 壁を乗り越えるために

▶ 私たち一人ひとりにできること

- 高齢者の状況を把握し、声かけを心掛ける。
- 地域活動に参加し、近所の人との交流を深める。
- 市の広報誌などを参考に、地域の情報収集を行う。

▶ 地域で力を合わせればできること

- 地域住民間で情報を共有し、連携を強化する。
- 自治会の役割を見直し、新たな活動に取り組む。
- 学校教育に高齢者福祉を取り入れ、理解を深める。

▶ 行政に手助けしてほしいこと

- 個人のニーズに合わせた支援体制を構築する。
- 支援が必要な高齢者への効果的なアプローチ方法を模索する。

▶ 企業や他の団体に力を借りたいこと

-

個別意見

個人	● 状況の把握 ● 孤独な高齢者が家族であれば、積極的な会話 ● 自治会などに参加する ● 近所の人と関わる ● 個人差による幸福度 ● 助け合い ● 挨拶する、知り合いになる ● 前橋市の広報を丁寧に読む
地域	● 情報の共有 ● 自治会の役割(再考する) ● 近隣との連携、ネット社会への対応を進める ● 学校で問題を把握する。探求学習を実施する
行政	● 本人が選択できるようにする、必要なところ、必要な人につなげる ● サポートが必要な方にどう関わっていくか、行政なりのやり方を模索する
その他	● 民間のサポートセンターなど

備考・補強意見

- どこでも人材不足と言える

2 環境づくり

■ つながりを深め、支え合う

- 地域住民同士のつながりを強化し、互いに助け合う仕組みを構築することで、より温かい地域コミュニティをつくっていく。

■ 課題

- 地域住民のつながりの希薄化
- 自治会活動の衰退
- 世代間の交流不足

■ 壁

- ライフスタイルの変化、地域活動への参加率の低下
- 人材不足、新しいアイデアの欠如
- 価値観の違い、コミュニケーションの機会が少ない

■ 壁を乗り越えるために

▶ 私たち一人ひとりにできること

- 日常生活の中で積極的に地域に関わる。
- まずはあいさつ・声掛けから、近所の人と交流する。
- 周囲の様子を見守り、困っている人を支援する。

▶ 地域で力を合わせればできること

- さまざまな形の交流の場を創出し、互いを支え合う。
- 近所同士のつながりを強化する。
- 自治会活動への心理的ハードルを下げる。

▶ 行政に手助けしてほしいこと

- 地域活動を、より強く支援する。
- 相談窓口をより身近にする。
- 地域の情報を集め、地域に情報をフィードバックする。

▶ 企業や他の団体に力を借りたいこと

- 学校で問題を把握する。探求の学習を実施する。

個別意見

個人	● 日頃からあいさつや声がけをして、近所の人と交流を持つ、知り合いになる ● 自治会活動に参加してみる ● 興味を持つ、参加できるものに参加する ● 孤独な高齢者が家族であれば、積極的に会話する ● 周囲に困っている人がいたら協力する。それに気づかないと動けない ● 様子の見守り。いつものと様子が変ったら相談窓口につなぐ
地域	● 町内会で協力しあう ● 自治会参加への敷居を下げる、自治会に代わる住民のラフな集まりの場を作る ● イベントなどを開催する ● 地域の人がお互い様と思える日常的な見守り（多くの人はゆるやかに見守る体制） ● 近所の人とのつながりを日頃から作る（顔見知りの関係、変化に気付ける関係） ● 高齢者ならではのポイント（伝統）で交流する場を（頼られる） ● 近所に病院や買物に行く足のない人がいれば、可能な限り、足となってやる
行政	● 相談できる環境づくり ● 相談窓口の周知 ● 相談対応→状況の把握、本人の希望の確認 ● 解決に向けた対応→具体的な対策について情報提供 ● イベントの広告を実施
その他	● 学校で問題を把握する。探求の学習を実施する。

備考・補強意見

- （行政は）やっている事が複雑なので「困った時には相談してきてください」程度で良いので門戸を緩めて欲しい。お役所仕事といわれるように、何となく事務的なイメージなので、寄り添うイメージに変わると良いと思います。

3 仕組みづくり

■ 情報提供の充実と制度の改善

- 高齢者福祉に関わる制度やサービスの改善、情報伝達の効率化を進めることで、より効果的な支援体制を構築する。
- 地域包括支援センター、福祉施設、ボランティア団体など、組織同士の連携を強化し、協働で課題解決に取り組む体制をつくる。

■ 課題

- 情報伝達の不足
- サービスへのアクセス障壁
- 多様な主体間の連携不足

■ 壁

- 情報源の多様化、IT リテラシー
- 制度の複雑さ、手続きの煩雑さ
- それぞれの役割分担の不明確さ
- 人材不足、新しいアイデアの欠如

■ 壁を乗り越えるために

▶ 私たち一人ひとりにできること

- 見守り、相談相手になり、情報伝達の主体であり手段になる。
- ネットリテラシーを教える人になる。

▶ 地域で力を合わせればできること

- 取り残さない助け合いの仕組みをつくる。
- いいサービスがない、いい担い手がいないところに、新たなサービスを創出する。

▶ 行政に手助けしてほしいこと

- 制度を簡素化し、もっと使ってもらえるようにする。
- 専門機関やボランティアを活用し、担い手になりたくなる仕組みをつくる。
- 教育機関と連携し、みんなが支援を知っている状態にする。
- 地域ともっと近づいて連携を強化する。

▶ 企業や他の団体に力を借りたいこと

- サービスのオンライン化、高齢者向けの IT サポートなど、デジタル技術を広める活動を始める。

個別意見

個人	● 見守り、相談相手、手助け、行政につなげる ● 積極的に支援の情報をキャッチしようとしにいく ● キャッチした情報を周囲に伝える ● タブレットの使い方を教える
地域	● 回覧板、井戸端、会話 ● 見守り、手助け ● 自治会の勉強会 ● 自治会の事業として地域の仲間でグループを作り、有料の個人タクシー的事業を始める ● 自治会であれば、参加しない時のペナルティーを設ける。ゴミ捨て場の使用禁止とか？もしくは、金銭的なインセンティブを設定する
行政	● なるべく広範囲に、より知ってもらうようにする ● 行政サービス、政策などの情報発信強化 ● 地域住民の生活状況をデジタルで把握、地域と情報を共有する ● 政策や支援サービスなどの情報発信 ● 制度を分かりやすく届ける ● SNS を活用した広報活動を強化する ● ネット+α での発信 （連携の強化） ● PTA の外部依頼みたいに、（支援の中身を）外部にお願いする ● 一人でも多く孤独な人をサポートできる体制づくりを増やす（ボランティア等） （教育の強化） ● 学校教育現場で教える ● 中高生に学校で教える機会を設定する ● 多分、制度を教えることに特化した会社もあるのでは？専門職に業務依頼すれば？ （新規事業検討） ● 訪問販売などをやる ● タブレットの貸与事業 ● 主要な病院やスーパーを回る巡回バス、タクシーの制度を作る・地域を広げる
その他	● DX に長けた企業（市民情報をデータベース化） 世話の引き受け・イベント開催 ● 中学、高校、地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉施設、バス・タクシー会社 福祉について教育・サービスのあることを紹介する・介護施設、病院を紹介する、現状を伝える

備考・補強意見

- 「教育」でけっこう解決できると思う。学校と行政が仲良くなれば、タウンシップ教育とか、今の時代に合っている気がします。年齢いっている人には、たぶん理解されない気がする
- 高齢者をサポートする側の数が重要